

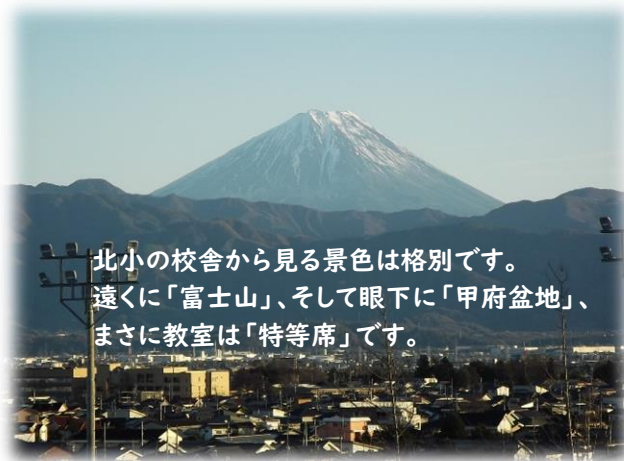


～楽しい冬休みに～

2学期はじめは、新型コロナウイルス感染症第7波が収まりつつあった頃でした。収束の行方と熱中症を心配しながらのスタートだったことを記憶しています。そして、季節は夏から冬へと巡り、今は第8波の最中、寒さとともに2学期の終了を迎えようとしています。まさに「光陰矢の如し」、時の流れの速さとコロナの移り変わりの激しさを感じてなりません。

今学期は、当初の予定通り80日間の授業日でした。(学級閉鎖のあったクラスは若干短いです) 昨年度の2学期は分散登校でのスタートであったため、2学期がほぼ通常に実施できたことは**何よりの喜び**であり、子どもたちが元気に登校し、毎日の活動に精一杯取り組めたことが**何よりの収穫**です。運動会や校外学習、児童会選挙や音楽会、日々の授業や活動と一つ一つは小さくとも、**子どもたちの財産**に確実になったといっでしょう。どの子も、1学期よりまた一回り大きく成長したと感じています。

さあ、いよいよ冬休み。子どもたちは、きっとウキウキワクワクしていることでしょう。短い冬休みではありますが、お正月や年末年始といった「冬の風物詩」を大いに楽しんでもらいたいと思います。もちろん、コロナ対策も忘れずに。そして、1月10日の3学期始業式に、元気な(^_^)(^_^)で会いましょう。



北小の校舎から見る景色は格別です。遠くに「富士山」、そして眼下に「甲府盆地」、まさに教室は「特等席」です。

～冬至～

今日22日は、二十四節気の1つ「**冬至**(とうじ)」です。冬至は、「冬の頂点」といわれ、1年で最も昼の短い日になります。実際に、甲府での日照時間は9時間半程になり、夏至(6/21)のそれが14時間余りですから、およそ5時間短くなります。昔から太陽の出ている時間が一番短いことから、太陽の力が一番弱まる日とされ、その翌日から再び太陽の力が強まる(日照時間が長くなる)ことから、「太陽が生まれ変わる日」とも捉えられています。そして、この頃には、ゆず湯に入ったり、カボチャを食べたりといった**昔からの習わし**もあり、夏からの疲れた体と冬の寒さに向かう体へのいたわりの意味が込められています。さしずめ、1年間頑張ってきた心と体へのご褒美といったところでしょうか。



～竜電関から学ぶ～

山梨県出身の竜電関が大相撲で活躍しています。ご存じの通り、彼は「竜王中」出身であり、しこ名の「竜」の字は、もちろん竜王に因んだものです。地道な努力と恵まれた体格を生かして、現在に至っています。

今年はじめの1月場所は、「幕下」といういわば関取ではない番付でした。その後、十両に上がった3場所のうち2場所優勝し、秋には、晴れてテレビのメイン画面に登場する番付まで上がってきました。今年の6回すべての場所で勝ち越しを収めたのですからたいしたものです。

順風満帆の竜電関のように思われがちですが、実は3度の骨折という大きなケガに見舞われ、一時は再起も危ぶまれるほどだったといいます。番付でいう最下位の「序の口」まで陥落しても、その度に不屈の闘志で這い上がってきました。新型コロナウイルスガイドライン違反は決して誉められたものではありませんが、反省を態度で示し、謙虚に直向きに取り組んできたことはすばらしいことだと思います。

人生には、挫折や失敗は付きものです。そんな時は気持ちも落ち込み、前を向けないことも多くあります。しかし、そこで立ち止まってしまったら、その後の自分の成長や進歩はなくなってしまうことになります。大事なことは、挫折や失敗を謙虚に受け止め、その後どう進んでいくか、どう気持ちを切り替えていくかです。相撲だけに、「**仕切り直し**」が大切なのですね。大人同様、子どもたちにも失敗は付きものです。そこからどう立て直すか、ともに考えていきたいものです。

今後も地元縁のある竜電関の活躍を見守って行きたいと思



～今年の漢字「戦」～

先日、今年の世相を表す漢字一字が「戦」と発表されました。理由として、ロシアのウクライナ侵攻により「戦」争の恐ろしさを目の当たりにしたこと、円安や物価高による生活上での「戦」い、サッカーW杯をはじめとするスポーツでの熱「戦」挑「戦」があったことなどが挙げられています。因みに、2位は僅差で「安」、3位は「楽」だそうです。

年末恒例のこの行事は、京都・清水寺の舞台で貫主（僧侶の代表者）が、大きな紙に、太い筆で揮毫することでも知られています。一見、清水寺が主催となって行っている行事かと思いきや、実は、日本漢字能力検定協会（漢検）が主催している企画であることはあまり知られていません。

さて、「戦」が選ばれた背景には、確かに暗いニュースが多い1年だったと言うべきかもしれません。しかし、先日まで行われていた、サッカーW杯日本代表の活躍は目覚ましく、まさに熱「戦」、挑「戦」が人々の心を打ったことは間違いありません。スポーツ界に留まらず、いろんなところで奮闘する人々の活躍は、私たちに**勇気と感動・希望**を与えてくれる、深く心に刻まれた出来事でした。相変わらず新型コロナウイルス感染症に関わるニュースは絶えることがありませんが、改めて1年を振り返ってみると、悪いことばかりではなかったように思います。もちろん、たくさんの制約があったことは確かですが、家庭や学校において、実現できたこと、可能になったこともたくさんあったはずで

す。この1年をゆっくり振り返るとともに、来る令和5年が、明るいニュースで満ちあふれることを願いつつ、今年の締めくくりといたします。それでは、よい年をお迎えください。

